

# 自粛期間における「なりきり名画」に関する授業実践について

－「なりきって わっしょい～お家でアート～」の実践－

中野 良寿・西村 優子\*<sup>1</sup>

A class practice about "Narikiri masterpiece" during the self-restraint period:  
Practice of "Narikitte Wasshoi ~Art at Home ~"

NAKANO Yoshihisa, NISHIMURA Yuko\*<sup>1</sup>

(Received December 15, 2021)

キーワード：臨時休業、美術科、なりきり、家族、鑑賞

## はじめに

2020年4月、感染症拡大防止のため学校が臨時休業となり、さらに延長されることになった。中学校の美術科においては、入学したばかりの1年生の生徒に新しい教科書や資料集を配付し、さあ、これから美術の学習に本格的に取り組もうという矢先であった。本校に赴任したばかりの筆者は、1年生との学習に意気込んでいただけに残念な気持ちであり、また、その後の休業延長で学校再開の見通しも立たず意気消沈の日々であった。家庭訪問もなくなり、代わりに各家庭への電話連絡を取ることとなり、保護者と生徒の様子などについて話すと、保護者も不安などでストレスが溜まっている様子であった。

そのような中、ニュースで、やはり感染症拡大防止のため休業を余儀なくされ、自宅待機となっているロンドンナショナルギャラリーの職員が、自分や家族らがモデルとなって自宅にあるものなどを使い、ギャラリーの名作をオマージュしていることを知った。なじみの作品や初めてみる作品、改めてロンドンナショナルギャラリーの所蔵作品であることを確認できたものもあった。さすが、ギャラリーの職員だけあって、家庭内で限られたものしか使えないにもかかわらず、実に上手く人や物（場合によってはペットまで）を使い、撮影方法も工夫していた。何より、職員が楽しみながら取り組んでいる様子に、みている筆者まで愉快的気分になった。そこで、この活動を休業中の生徒の課題にできないかと考えた。理由は、以下のような点である。①自分の家で学校より使える物も多く、着替えなどもしやすい。②屋内、屋外の両方での撮影が可能である。③授業で十分にみることでできなかった教科書や資料集をゆっくりみることができる。④作品になりきることで、作品を注意深くみるようになる。⑤生徒や家族のストレスの緩和につながる。特に、⑤については、この愉快的活動によって、生徒自身やその家族のストレスが少しでも軽減できればと期待した。

## 1. 「なりきり名画」と現代アートにおけるポストモダン作品との関連性について

ポストモダン(postmodern)とは「近代以降」の意であり、1970年代以降に建築の様式から広がった概念でチャールズ・ジェンクスが提唱した概念である。80年代以降は現代アートの領域でも多用され、フランスの哲学者ジャック・デリダの提唱した「脱構築」の概念も様々な作家の制作活動の方向性に強く影響を与えた。

特に、ジャンボードリヤールが1981年に出版した「シミュラクルとシミュレーション」で「オリジナルなきコピー」に代表される「ハイパーリアル」という「実在」と「空想」、「真」と「偽」の境が消失した状態についての言及は様々な作家の作風の確立における根拠と謳われた。例えば、アメリカ人で1970年代末から活動を始めたシンディー・シャーマン(1954～)や80年代から活躍する森村泰昌(1951～)などがある。

シャーマンはB級映画やフィルム・ノワールのヒロインに扮して撮影した「アンタイトル」という白黒写

\*1 山口大学教育学部附属山口中学校

真のシリーズや「歴史肖像がシリーズ」など様々なシリーズがある。森村は1985年にヴァン・ゴッホの《包帯をしてパイプをくわえた自画像》に扮したセルフ・ポートレート写真《肖像・ゴッホ》を発表し、その後も美術史上の東西の名画をシミュレートしたセルフ・ポートレートシリーズを展開している。

本稿における「なりきり名画」の流行についてもこのようなポストモダン社会を背景としたシミュレショナル・アートの一般化やインターネット社会の確立と、スマートフォンの発達によるSNSの興隆とカメラや動画の高性能化という要素も大きいと思われる。2020年から数年にわたる新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、世界中の人々の物理的なコミュニケーションを阻害したが、一方で物理的な接触をしなくても可能な遠隔会議やゲーム、仮想通貨やNFT（「Non-Fungible Token（非代替性トークン）」の略）の発達など、仮想社会をツールにしたコミュニケーションを可能にし、今後もさらなる展開が見込まれている。このような文化背景の中で自宅に居ながらインターネット上で確認できる美術館の作品を原案としながらも、自宅の一角をインスタント撮影所として、自身が名画の登場人物や舞台装置になりきる、演劇的な要素を持った「なりきり名画」は生徒だけではなく家族ぐるみで行うことにより、自宅に縛り付けられた抑圧的な環境を精神的に和らげる機能も併せ持つ好例である。

## 2. 中学校美術科における実践

### 2-1 題材名

なりきって わっしょい～お家でアート～（第1学年）

### 2-2 目標

- 1) 教科書や資料集などに掲載の作品を見つめ、感じ取った美しさや特徴、想像したことなどを基に主題を生み出す。
- 2) 作品の形や色、材料、光などについて全体と部分との関係などを考え、効果的に表現するためのポーズや構図を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
- 3) 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、作品の見方を広げる。
- 4) 楽しく取り組むことで、美術の役割について気付くことができる。

### 2-3 事前学習

臨時休業の延長期間に入る直前、本校では、各クラス（1クラス35名）を4グループ分け、各グループ30分間の分散登校を行った。生徒の様子を確認するためとその後の休業中の過ごし方について確認するためであった。その際に、ロンドンナショナルギャラリーのフェイスブックの作品を生徒にみせた。（図1）また、実際にはどのようなものか、イメージを伝え、家族にも協力してもらいやすくするために、図2のような作品例（学年教員による制作）と説明文を保護者向けの学校メールにて配信した。



図1 作品をみる生徒



図2 「最高の晩餐」



図3 楽しくなりきる教員

作品例については、学年担当の教員に協力してもらいレオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」（一

部)を制作した。学年担当の教員として、生徒が課題としてどのようなことをするか把握しておいてもらうためである。制作の過程で、おのずと作品についての話題が挙がり、それぞれの人物が誰なのか、なぜ、このようなポーズや表情をしているのかといったことについて会話が盛り上がった。その様子から、改めて鑑賞の学習としての効果を確認することができた。また、教員が楽しそうになりきる様子に、不安な状況下で、生徒が楽しく取り組むことのできる課題であることの手応えを感じた。(図2)(図3)

## 2-4 制作の実際

家庭内で制作されたため、実際の様子をみることはできなかったが、提出された作品からは、その工夫の様子や家族とのかかわりをみてとることができる。

### 作品

#### <材料の工夫(見立て)>

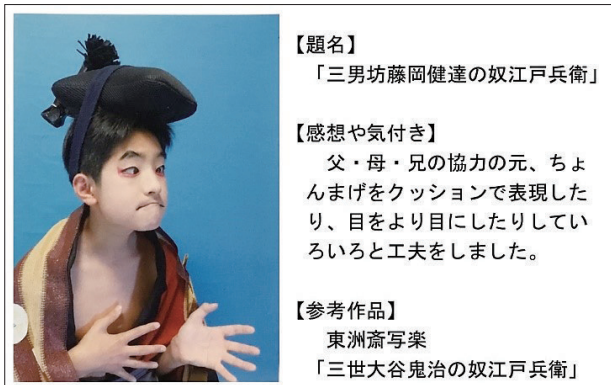


図4 レジャーシートを着物に見立てる

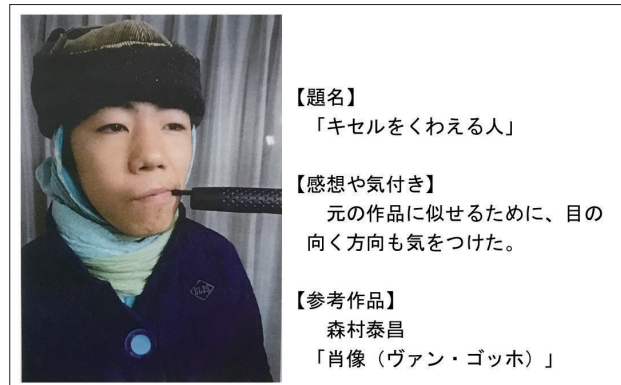


図5 ゴルフクラブの持ち手をパイプに見立てる

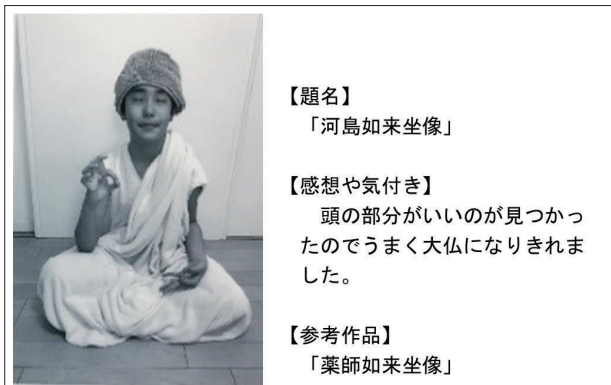


図6 バスマットの凹凸を仏像の螺髪に見立てる

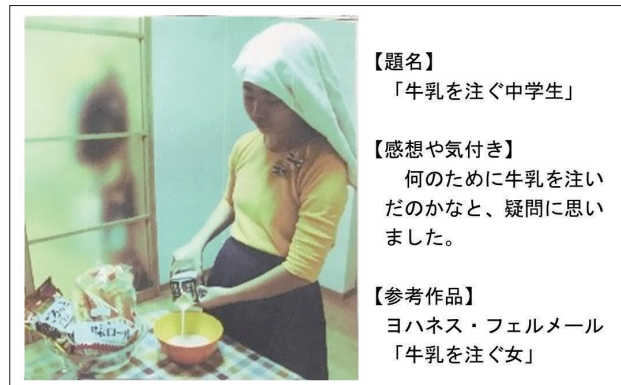


図7 パンや牛乳入れは現代の物で

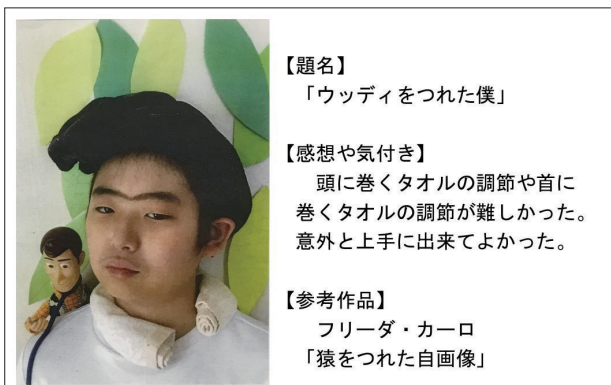


図8 人形を猿に見立てる

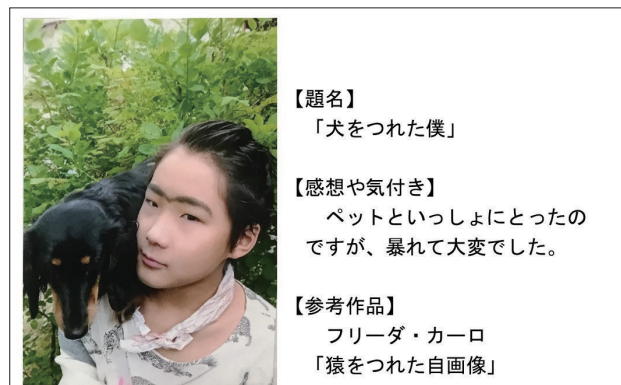


図9 犬を猿に見立てる



<加工（物に手を加えて）>



【題名】  
「別人者ヨハネ」

【感想や気付き】  
じっくり見てそっくりのポーズをとったつもりだったけど、後からげんごうしてみたらぜんぜんちがってました。

【参考作品】  
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
「洗礼者ヨハネ」

図10 ニット腹巻を解いてヨハネの巻き髪に  
<制作（つくる）>



【題名】  
「段ボールカーメン」

【感想や気付き】  
大変だったけど、兄に手伝ってもらったので楽しかったです。

【参考作品】  
「ツタンカーメン王の黄金マスク」

図11 段ボールの凹凸を出して



【題名】  
「真面」

【感想や気付き】  
正直似てはいない。でも、コブラの表現を思いつけたのは良いと思う。

【参考作品】  
スリランカの仮面  
（複数のコブラの装飾あり）

図12 手袋や靴下をテープで飾りコブラを表現



【題名】  
「家脱出・傘をさす私」

【感想や気付き】  
草が細かく描かれていたのでちぎり絵で再現してみたり、女の人の服がなびいていたので、クリップなどを使って再現してみたりという工夫ができた。

【参考作品】  
クロード・モネ  
「散歩、日傘をさす女」

図13 色画用紙で手前の草原を表現



【題名】  
「新聞紙でもいいかんじの源」

【感想や気付き】  
今は写真ですぐ撮影できるが、昔は、絵をかくのに動かないようにしないとイケないから、きつかったらろうと思った。

【参考作品】  
「伝源頼朝像」

図14 新聞紙で着物などを制作



【題名】  
「僕の ゴッホ 自画像」

【感想や気付き】  
だれかの絵をまねすることは、難しいと感じました。特に、ひげの部分が難しかったです。

【参考作品】  
フィンセント・ファン・ゴッホ  
「自画像」

図15 背景を描く

<家族の協力>



【題名】  
「阿修罗像 2」

【参考作品】  
「阿修罗像」

【感想や気付き】  
阿修罗像の頭についていた何かをタオルで再現しました。

図16 家族（母と祖母）動員

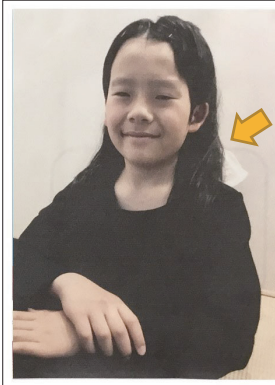


【題名】  
「はるきのさきび」

【参考作品】  
エドヴァルト・ムンク  
「叫び」

【感想や気付き】  
このかっこうはとてもはずかしかったけど、がんばりました。

図17 家族も入れて背景を再現

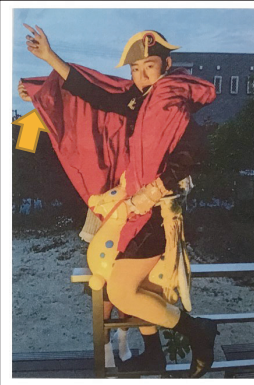


【題名】  
「タジ・リザ」

【感想や気付き】  
成りきってみたら、その人の  
気持ちが分かったような気がし  
ます。カツラではありません。

【参考作品】  
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
「モナ・リザ」

図18 髪は途中から妹の髪（二人羽織中）  
〈ポーズの工夫〉



【題名】  
「ロディレオン」

【感想や気付き】  
初めてこんなことをしたので  
楽しかったです。自分としては  
よくできたと思います。

【参考作品】  
ダヴィッド  
「サン＝ベルナル峠を越える  
ボナパルト」

図19 後ろでマントをはためかせる妹



【題名】  
「真珠の耳飾りの少年」

【感想や気付き】  
一番難しかったところは首の  
角度で、作者は非常によく考え  
ているんだなと思いました。

【参考作品】  
ヨハネス・フェルメール  
「真珠の耳飾りの少女」

図20 首の角度にこだわる  
〈表情の工夫〉

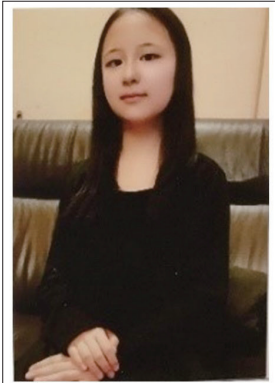


【題名】  
「おもちゃで遊ぶ山本の子ど  
もーソラとソラの妹・ミラ」

【参考作品】  
オーギュスト・ルノワール  
「おもちゃで遊ぶ子どもーガ  
ブリエルと画家の息子ジャン」

【感想や気付き】  
髪の毛や服装を真似するのは簡単だったが、体の向きや顔の角度  
をそろえるのが難しかった。

図21 体や顔の角度を調整する



【題名】  
「クボ・マユ」

【感想や気付き】  
「モナ・リザ」の表情をつく  
るのが大変だった。

【参考作品】  
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
「モナ・リザ」

図22 苦労したモナ・リザの表情  
〈その他の工夫〉



【題名】  
「仲良しな3兄弟」

【参考作品】  
レオナルド・ダ・  
ヴィンチ  
「小椅子の聖母」

【感想や気付き】  
絵の説明に「おだやか」とあり、その通り本物の絵は優し  
げな表情をしていたので真似しようと兄弟でがんばりました。

図23 優しい表情を意識する



【題名】  
「ターバンを巻く私」

【感想や気付き】  
光のあたり方が難しかったで  
す。もう少し黄色い布が見れて  
いたら良かったです。

【参考作品】  
ヨハネス・フェルメール  
「青いターバンの少女」

図24 光にこだわった作品



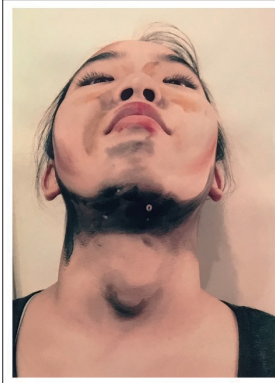
【題名】  
「思い出のmyメロディー」

【感想や気付き】  
私が想像したのは、過ぎさっ  
て流れていく音楽です。勢いの  
ある表現をカメラであえてブラ  
して撮ってみました。

【参考作品】  
クロード・ワイズバッシュ  
「ノスタルジー」

図25 撮影方法でスピード感を表現





【題名】  
「安井曾太郎の真似」

【感想や気付き】  
陰影を再現するために自分がキャンバスになったつもりで水彩絵の具で色をつけました。喉仏を描くのが難しかったです。

【参考作品】  
安井曾太郎 「自画像」

図26 メイクで近づける



【題名】  
「花咲く時」

【参考作品】  
フィンセント・ファン・ゴッホ  
「種をまく人」

【感想や気付き】  
角度なども考えて絵をかかないと、不自然になることがわかりました。

図27 制作でのポイントに気づく

図4～図27のような表現から、生徒が作品の形、色、素材などの造形要素をしっかりとみてとったことや材料等について様々な工夫を凝らしたことが伺える。また、写真による表現ということで、明るさを意識したり、スピード感の表現のためにシャッタースピードを調節したりするなど、事前に予想していた以上の工夫がみられた。作品の雰囲気を再現するために、ものの形や色、素材などについて家族とともに、何度も検討した様子であった。また、生徒自身や家族の微笑ましい表情から、楽しく活動できた様子が感じられた。

## 2-5 鑑賞会

学校再開後、授業において鑑賞会の時間を1時間設定した。自分の作品について工夫したことや制作のエピソードを話すとともに、友人の作品に対して「いいね ポイント」を伝える活動を行った。鑑賞会について、生徒から次のような振り返りが挙げられた。生徒は、お互いの作品を鑑賞することを通して、衣装や持ち物、ポーズや表情、背景や明るさ、写真の撮り方などの工夫点に気づくことができた。自分では意識していなかった工夫もあり、新たな作品の見方（鑑賞の視点）に気づくことができたようであった。

### 【鑑賞会の振り返り】

- ・ みんな、日用品や周りのものをつかって、だれでもできやすいよう工夫したりしてすごいと思いました。また、ポーズにこだわったりしてすごいと思いました。
- ・ みんな、本物と同じ服そうや背景ですごいなと思いました。体の角度もはかっているときいて、すごいなと思いました。
- ・ 現代ばんの作品や周りの建物が映らないように写真の撮り方で工夫されていてすごいと思った。
- ・ みんな細部までこだわっていて、すごいなと思った。また、作品の世界に入りこんでいてとても楽しそうだった。みんなのエピソードも聞けて、つくっているときに「そんなことがあったのだ。」ということが多く、とても面白かった。
- ・ みんな、表情もそっくりになりきったりしていて、とても手のかかりそうな作品ばかりだった。人それぞれ表現の仕方は違った。作品の特徴に注目するところが違った。
- ・ まわりの人の作品のクオリティーの高さにおどろきました。小道具にも気をつけているし、照明なども考えられていてすごいと思いました。
- ・ 人物画の人も像（立体）の人もいたけど、みんなそっくりで、家族全員でがんばったんだなと思いとてもすごいと思いました。

## 2-6 評価について

本来は、評価の計画を立てた上での学習活動であるが、臨時休業による予定外の取組であったため、急遽、評価計画を作成し、制作や鑑賞についての評価を行った。なお、次年度から評価方法が変わることもあり、今回の評価は令和3年度からの評価方法を試みた。

まず、関連する学習指導要領の内容を、第1学年 「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現 「A表現」 (1)ア(ア)〔共通事項〕 (1)アイ」および、「作品や美術文化などの鑑賞 「B鑑賞」 (1)ア(ア)〔共通事項〕 (1)アイ」と定めた。なお、本実践では、各家庭での制作、カメラの自動撮影を利用のため、「技能」の指導及び評価は位置づけないこととした。内容のまとめりごとの評価基準（表1）に基づいて、題材の評価規準（表2）を定め、指導と評価の計画（全4時間）を立てた。評価において、特に、「主体的

に学習に取り組む態度」の観点は、生徒が自ら資質・能力（「知識」、「思考力、判断力、表現力等」）を身につけようとする態度や、発揮しようとしたりする態度を評価するものである。本実践では、表4のように各段階（生徒が教科書や資料集掲載の先品を鑑賞する段階、作品になりきる段階、級友の作品を鑑賞する段階）において、評価のポイントを設定し、本人の様子（見取ることができた範囲）やワークシートの記述などから、評価を実施した。

## 2-7 成果と今後の課題

急ではあったが、配布した教科書や資料集に掲載されている作品などをみつけ、感じ取ったことをもとに、造形的な特徴に着目して作品になりきること、家族との愉快なかかわりをもたせること、美術が果たす役割に気づくことをねらいに設定した課題であった。生徒は作品に向き合い、ポーズや表情、衣装や持ち物、背景や光にまで注目し、その再現に工夫を凝らしていた。なりきるという行為が、深い鑑賞につながる可能性を感じることができた。また、作品の再現にあたって、生徒が家族とともになりきることを楽しんだり、参考資料づくりに教職員も楽しそうに取り組んだりすることから、造形活動が人々に明るさやつながりをもたらすことを再確認することができた実践であった。現在、依然として感染症拡大が懸念され、不安や焦燥感も少なくない状況であるが、このような時だからこそ、生徒やその家族が造形的な表現や鑑賞の喜びや明るい気分を味わうことのできる教材の開発をしていきたいと考える。

表1 内容のまとめりごとの評価基準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。</li> <li>・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</li> </ul>	<p>「A表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</li> </ul> <p>「B鑑賞」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

表2 題材の評価規準（下線部は今回の実践に対応する表記）



「知識及び技能」	「思考力、判断力、表現力等」	「主体的に学習に取り組む態度」
<p>知（知識に関する評価規準）</p> <p>形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを基に、<u>作品を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</u></p>	<p>発（発想に関する評価規準）</p> <p><u>教科書や資料集などに掲載の作品を見つめ感じ取った美しさや特徴、想像したことなどを基に主題を生み出し、形や色彩、材料、光などについて全体と部分との関係などを考え、効果的に表現するためのポーズや構図を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</u></p> <p>鑑（鑑賞に関する評価規準）</p> <p>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態発（表現における「主体的に学習に取り組む態度に関する評価規準」）</p> <p>美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作品美しさや特徴などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑（鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度に関する評価規準」）</p> <p>美術の創造活動の喜びを味わい造形的な美しさや特徴を感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなど見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

表3 指導と評価の計画（全4時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思考	態度	評価方法・留意点等
<p><b>1 発想や構想（3時間）</b></p> <p>●作品の全体のイメージや作風を捉え、形や色彩、材料、光などの性質や効果について理解する。 ・参考作品の印象や特徴を基に、形や色彩、光などについて話し合う。</p> <p>●主題を生み出し、表現するための工夫を考える。 ・主題を基に、形や色彩、材料、光などについて全体と部分との関係などを考え、効果的に表現するためのポーズや構図を工夫して撮影する。</p>	<p>知 ↓</p> <p>発 ↓</p> <p>発</p>	<p>思考</p> <p>発 ↓</p> <p>発</p>	<p>態表 ↓</p> <p>態表</p> <p>態表</p>	<p>知形や色彩、材料、光などの効果や、参考作品の印象や特徴を基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言や活動の様子】 【発言や活動の様子】</p> <p>態表形や色彩、材料、光などに着目したり、工夫と表現の効果について理解しようとしたりする意欲や態度を見取り、できていない生徒に対して工夫の内容から作品を再度見つめさせるなどの指導を行う。【発言や活動の様子】</p> <p>発主題を基に、形や色彩、材料、光などについて全体と部分との関係などを考え、効果的に表現するためのポーズや構図を工夫しているか見取り、工夫が思いつかない生徒に対しては、作品から感じ取ったことなどを振り返らせるなどの手立てを講じる。【活動の様子】</p> <p>態表主題を表現するために、様々な工夫をしようとしている態度を評価する。行き詰まっている生徒に対しては、モニターなどと元の作品を確認したり他者と助言し合ったりするなどして、改善の視点に気付かせるようにする。 【途中の作品や活動の様子】</p> <p>態表楽しく撮影に取り組み、形や色彩や材料や光などの効果や作品を全体のイメージで捉えることを理解しようとし、主題をよりよく表すために改善を図りながら工夫しようとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート】</p>
<p><b>2 鑑賞（1時間）</b></p> <p>●生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを話し合う。</p>	<p>鑑 ↓</p>	<p>鑑 ↓</p>	<p>態表 ↓</p> <p>態表</p>	<p>知形や色彩、材料、光などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。 【ワークシート、発言の内容】</p> <p>鑑態鑑主題を表現するための、形や色彩、材料、光などの工夫を感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができるかどうかや、活動に取り組む態度をそれぞれ見取り、できていない生徒に対して主題や工夫から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。 【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p> <p>態鑑楽しく作品を鑑賞し、形や色彩、材料、光などの効果や作品の印象や全体のイメージで捉えることを理解しようとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。 【ワークシート、活動の様子】</p>
<p>&lt;授業外：題材終了後&gt;</p>	<p>知</p>	<p>鑑 ↓ 発</p>	<p>態表</p>	<p>知完成作品やワークシートなどから形や色彩、材料、光などの効果についての理解や、作品の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【完成作品、ワークシート】</p> <p>鑑作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価する。 【ワークシート】</p> <p>発発想や構想については、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて見取りに必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】</p>



表4 各時間における「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

第一次（前半） 態表	第一次（後半） 態表	第二次 態鑑
<p>生徒が鑑賞した作品</p> <p>森村泰昌 「肖像（ヴァン・ゴッホ）」</p>	 <p>図 28 「ウチノニムスのかゆみとの闘い」</p>	 <p>図 29 「パンとミルクと自分」 (生徒が鑑賞した級友の作品)</p>
<p>作品について詳しく読み取ることができました。<u>色だけでなく、光やポーズ、着こなしなども考えられていました。</u>作者の思いが込められた表現があると思うので、これからも発見していきたいです。 (生徒の感想)</p>	<p>ひげとか髪の毛を綿で作ったのですが、ものすごくかゆくて。想像以上に、この表情や目線をつくるのが難しかったです。<u>髪の毛のボリュームをもう少し似せることができたかと思いました。次は背景の色や影などももう少し工夫してみたいです。</u> (生徒の感想)</p>	<p>元の作品に似せるため、実際に同じこと（牛乳を注いだり、耳飾りをつけたりしている点）はよいと思った。Aさんは、部屋の明るさも元の作品と似ていてよいと思った。明るさも参考にしたい。 (生徒の感想)</p>
<p><b>評価のポイント</b> 形や色彩、材料、光などに着目したり、工夫と表現の効果について理解したりしようとしている。</p>	<p><b>評価のポイント</b> 造形的な視点を意識しながら、よりよく表現するために改善を繰り返したり、継続して意欲的に取り組んだりしようとしている。</p>	<p><b>評価のポイント</b> 他者の作品を鑑賞し、主題を表現するための形や色彩、材料、光などの工夫を感じ取るとともに、自分の視野を広げようとしている。</p>

付記

本稿の執筆は主に授業実践を行った西村が担当し、1-1 と監修を中野が担当した。

また令和2年度山口大学教育学部附属山口中学校第一学年担当教員及び第一学年生徒保護者の皆さんにご協力をいただきました。改めて感謝いたします。

参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編』，2017.

文部科学省国立教育施策研究所教育課程研究センター：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術』，2020.

美術手帖編集部編著：『現代アート辞典モダンからコンテンポラリーまで・・・世界と日本の現代美術用語集』，美術出版社，2009.

日本文教出版株式会社：『美術1 出会いと広がり』，2016.

東京書籍：『新編 新しい社会 歴史』，2019.

株式会社秀学社：『山口県版 美術資料』，2016.